

文芸学部の30年

年月日	元号	事 項
1986年	昭61	6月1日、文芸学部設置準備室が開設される。
1987年	昭62	文芸学部設置準備委員会が発足する。担当理事：飯塚義富氏。 準備委員長：佐野利勝氏、準備副委員長：綱澤満昭氏の体制で出発した。
4月1日		<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>◆世耕政隆総長(1923-1998)のこと 「文芸学部」の開設は、自らも詩人であり、文士との交友も広がった故世耕政隆総長の悲願であった。以下は、それを示す証言である。</p> <p>◇世耕政隆総長のことば 近畿大学は総合大学として一つだけ欠けているものがある。それは何か、文学とか芸術の分野です。…「学問の根源」と文学は言われております。その文学部が今までなかった。そこで今回、「文芸学部」、文学と芸術の分野を併せもった、非常にユニークなものを設置すると、今年申請する準備を進めています。（「近畿大学学報」第315号より）</p> <p>学部増設については、文学関係のもの、芸術関係のものですね、だいたい古い良い大学っていうのは、全部文学部を持っていますね。総合大学で文学部を持っていないのは、近畿大学ぐらいかな。</p> <p>これは学問の基礎となるんで、学問ってのは思想を必要とするんですね。考え方とか、思考力とか、想念、つまり想念の想念力とか、色々な思想とか哲学を、これは理工系でもそうなんですけれどもね。自然科学系でも文科系でもそういった一番の基本の人間の思考力っていうのは、どこまで展開されるか。一番の基礎になるわけですね。フィロソフィー、その他……。それで、文学っていうのは、ギリシャなんかでは、一番学問の基本となっている。そこからだんだん発展してきて、いろいろな法律とか経済とか自然科学が発達して、一番学問の根元になるんですよ。ただ小説書いているのが文学じゃないんで。文学というのは広い学問の一番基礎ですね。それに関する分野が、一つも我が大学にまだないのでこれらを総合的に取り入れた分野が一つ必要である。（近畿大学新聞会対談、「総長二十一世紀の展望を語る」より、昭和60年）</p> <p>◇『回想 世耕政隆』、「座談会」より 世耕 兄が近畿大学へ来たのは、医学部をつくるため、だから何があっても絶対にやらなくてはいけないと。ただ、本当に喜んだのは文芸学部をつくったときです。結局、兄の最終目的は文芸学部でしたね。</p> <p>清水 文部省と交渉しているとき、事務官が「文芸学部を認めましょう。ただ、医学部の定員を五名減らしてください」と言われた。これは困った、総長に何と報告しようかと。思い切ってその通り申しあげたら、「五名減らす？ いいじゃない」とあっさりおっしゃった（笑）。</p> <p>世耕 大学幹部の中には反対もあったけれど、全員を集めて一人ずつ尋ねたら、実際に反対の声は出なかった。それで実行に移したんだ。兄は文芸学部の認可をものすごく喜んだ。「さあ、これから東京の文士を全部集めるんだ」なんて言ってね。</p> <p>清水 長い間、いろいろな学部、学科をつくるのに関係しましたが、総長が直接文部省の審査会に出られたのは文芸学部の時だけです。</p> <p>※故世耕弘昭・元理事長、清水由洋・現理事長</p> </div>
7月30日		文芸学部設置認可申請書類(第一次)を文部省に提出する。
1988年	昭63	
1月22日		文芸学部設置第一次審査通過
6月29日		文芸学部設置申請書類(第二次)を文部省に提出する。

<p>9月7日 12月22日</p>	<p>大学設置審議会による実地視察が実施される。 文芸学部の設置が認可される。 ◇学科構成 3学科4専攻 ○文学科:国文学専攻 英米文学専攻 ○芸術学科:演劇・芸能専攻 造形美術専攻 ○文化学科</p>
<p>1989年 平成 4月1日 元年</p>	<p>文芸学部が開設され、教員31名が着任する。 学部長 塚野耕 文学科長 井上謙 芸術学科長 近藤公一 文化学科長 川中子真</p>
<p>4月8日</p>	<p>文芸学部開学部式および記念演奏会が11月ホールで挙行される。 一期生340名が入学。 ◇飯塚義富担当理事のあいさつ 「文芸学部では、理論研究と実技指導を並行して実施し、学生の理解を深め生涯にわたって身につく情操の涵養と能力の開発を目指し、そして学生諸君には、生涯にわたって『貴重なもの』と実感できる文芸的なものを身につけていただきたい。」(「近畿大学学報」第324号より) ◇塚野耕学部長のあいさつ 「三学科をもつ文芸学部は、文芸と芸術の接点を有機的なものとしていくと同時に、新しい文化創造を、特に『関西』ということ念頭に置いて理想とし、既設の文学部にはない特色を目指す、意欲的かつユニークな学部です。」(「近畿大学学報」第324号より) 式典の後の記念演奏会では、神谷郁代氏のピアノ独奏(ベートーヴェン作曲、《ピアノソナタ月光》ほか)、藤原俊輔近畿大学豊岡短期大学教授の独唱(世耕政隆作詩《但馬自然賛歌》ほか)が演奏された。 ◇文芸学部の理念 「・・・わが国ではどうしてか、単独に文学部として従来から存在しています。われわれはここに思いをいたし、文学と芸術全域を、同一空間、同一平面の上に位置せしめ、血をかよわしめ、各分野が学問また感性の上にも、学際的にも、交響し合うことにより、新しい未知の無限の広野が出現されうる、その可能性実現をしきりに思いまた願いました。これが、近畿大学文芸学部の設立を決意した大きな理由であります」。 (設立当時の文芸学部案内パンフレットより)</p>
<p>1990年 平2 3月20日</p>	<p>『文学・芸術・文化』創刊号が、文芸学部の「研究紀要」として刊行される。 ◇創刊号に寄せる世耕政隆総長のことば 「あらたに、『文学・芸術・文化』の名称のもとに発行される雑誌は、即物的で、およぼすところは深く広く、この三者は、集合体をなしたかとおもうと、たちどころに連結、融合体となり、やがて一体となる可能性を充分はらんでいるかと思われます。・・・意識と存在の存する限り、その不安、崩壊、分裂、構築等のくり返しを、また混沌の中をぐり往来する。それゆえに、この三者融合の分野には、いのちが宿されている。生命の発する声、そのき裂からのさけび、ここにはたしかにそれがある。また、生活、思念、知恵、情念、生理的必然としての噴出やむなきものの軌跡歴然とあろうかと思ひます。それ等はあきらかに、生命の反映であり、他の分野よりも、より深く強いられる生命の呼吸する根源に触れる何物かを思わせるものでしょうか。昨年発足した本学文芸学部とこの雑誌は、軌を一つにし、ともにおなじ宿運をたどるかと思ひます。その命のあかし、かぎりなく旺んならんことを念ずるものです」。 (創刊号「はじめに」より)</p>

年月日		事 項
1990年 4月1日 6月16日	平2	<p>新任教員13名が着任する。</p> <p>学園創立65周年の記念行事の一環として、文芸学部主催による《「欣求浄土」声明に寄せるパフォーマンス》が、演劇・芸能専攻の学生を中心に上演される。</p> <p>◇舞踊のこと 演劇・芸能専攻における「舞踊」は、他大学にはない文芸学部の特色を示すものである。この公演は、その存在を内外に示す最初の成果であった。神澤教授のことは「よかったと思うよ。全体として浄土の考え方に近づいていたと思うね。一人一人が場面場面で辛抱して努力してよくやったと思う。……それと、お坊さんたちと踊り手たちが溶け込み合っていたというのも成功の一つの原因であったやろうね」。(「近畿大学新聞」第319号より)</p>
1991年 4月1日	平3	<p>4月1日、新任教員4名が着任する。</p>
1992年	平4	<p>2月、文化学科谷川健一教授が、第42回芸術選奨において文部大臣賞を受賞。受賞対象作品は『南島文学発生論』。3月、民俗学における一連の業績で「第2回南方熊楠賞」を受賞。</p> <p>◇中上健次氏のこと 芥川賞作家、中上健次氏は演劇・芸能専攻の教授として着任されたが、この年8月、癌のため逝去された。しかし、学生に与えた影響は大きく、演劇・芸能専攻の一期生の演劇での卒業公演では中上氏の作品「十九歳の地図」が上演された。</p>
1993年 4月1日	平5	<p>文芸学部長に後藤明生教授が就任。学部長補佐制度が導入され、村上公敏教授が就任。</p> <p>◇後藤学部長のことは 「近畿大学文芸学部は、今春、第一期卒業生を社会に送り出した。つまり二周目に入った。文芸学部の今年度の二大テーマは、来年度からの新カリキュラムの実施と、大学院の開設である。新カリキュラムは、文学科、芸術学科、文化学科のそれぞれの学科、専攻の境界を超えた相互交流という、文芸学部そもその理念の実現である。……文学とは何か？文化とは何か？芸術とは何か？二周目に入った文芸学部は、この原理的な問から出発したい」。 (『文学・芸術・文化』学部完成記念特集号、「謎の探求、謎の創造」より)</p>
6月28日		<p>『淀川文化考(1)』(国文学専攻編)が刊行される。</p> <p>◇『淀川文化考』 この論文集は、文芸学部発足を記念して行われた総合研究プロジェクトの成果である。「この研究は学内助成金の特別プロジェクトのひとつで、文芸学部発足を記念して平成4年からスタート。淀川水系と大阪平野全体を視野に入れ、文学、芸術、文化の三領域を各自の専門分野から考究し、大阪の経済文化に寄与するねらい」。(「近畿大学大学新聞」第366号より)</p>
1994年 4月1日	平6	<p>3月、『淀川文化考(2)』(文化学科編)刊行される。</p> <p>大学院文芸学研究科修士課程が開設される。日本文学専攻、英米文学専攻、国際文化専攻の三専攻が認可され、後藤明生学部長が研究科長に就任。 新カリキュラムの導入。</p>

◇《超ジャンル》

後藤学部長は、学部長就任以来、文芸学部の理念として《超ジャンル》のスローガンを折に触れて内外にアピールした。

「文芸学部の理念は、文学・芸術・文化のそれぞれのジャンルが、互いに交流し、対話的に共存するところにあります。「対話的に共存する」ということは、ただ仲良く同居している、という意味ではありません。文学・芸術・文化の諸ジャンル間の矛盾＝対立を恐れないということです。矛盾＝対立を恐れず、互いに対話し合うということです。対話することによって、それぞれが、文学とは何か？芸術とは何か？文化とは何か？と自問すること―それが「対話的共存」ということです。文芸学部の理念は、文学・芸術・文化の諸ジャンルが、それぞれの専門、ジャンルを超えて互いに交流し対話する場の創造です。ジャンルを超えること、すなわち「超ジャンル」です。」

(「近畿大学新聞」1999・3・20)

6月 Eキャンパスに新校舎建築(現在のA館)の計画がたてられる。

1995年 平7

3月 『淀川文化考(3)』(芸術学科編)刊行される。

芸術学科造形美術専攻の「書・水墨コース」が廃止される。

4月1日 芸術学科造形美術専攻に「空間建築設計コース」が設置される。

博物館学課程が設置され、学芸員資格の取得が可能となる。

司書課程の適用が認可される。

10月28日 学園創立70周年記念行事の一環として、「プラスチック・ローズ」が演劇・芸能専攻の学生によって上演される。

◇「プラスチック・ローズ」の交換学生公演

太田省吾作・演出の「プラスチック・ローズ」は、この年12月より、カリフォルニア大学演劇科との間で交換学生公演が行われ、成功を収めた。

12月1日 自己点検報告書『教育・研究の記録自己点検・自己評価』を刊行する。自己点検・自己評価をまとめたのは近畿大学の中で文芸学部が最初であった。

1996年 平8

4月1日 「国文学専攻」を「日本文学専攻」に名称変更する。

学生募集定員を変更する。英米文学専攻:80名から60名、日本文学専攻:50名から70名。

4月22日 展覧会《淀川芸術考》が大阪府立現代美術センターで開催される。この展覧会は、「淀川文化考」の一環として、造形美術専攻の教員5人によって開催された。

5月10日 Eキャンパス新校舎(A館)の竣工式が行われる。

◇旧文芸学部校舎敷地内の遺跡

旧文芸学部校舎(10号館)敷地は、小若江遺跡の一部であることが発掘によって確認された。中世から近世の遺構が検出されたほか、弥生期の遺構も確認された。「小若江・山賀遺跡発掘調査報告書」が刊行されている。

年月日	事項
9月10日	平8 文芸学部がEキャンパス新校舎・A館に移転する。
10月18日	文芸講演会 講演者:蓮寅重彦氏、演題:「1934年の問題—合衆国・ソ連・日本」。
1997年	平9 7月、後藤明生学部長が学校法人近畿大学理事に就任。
1998年	平10 3月、『シュンポシオン』第3号発行。『シュンポシオン』は、当初、日本文学専攻の雑誌であったが、この年から文芸学部発行の雑誌となった。
4月1日	芸術学科造形芸術専攻に「芸術理論コース」が設置される。 工芸科教職課程が設置される。
6月2日	文芸講演会開催 講演者:坂上弘氏、演題「〈20世紀末〉という風景」。
9月25日	世耕政隆総長逝去。 ◇世耕政隆総長の詩の原点は紀州の深い森であった。 「春早く樹々の芽吹きは、山をおおう針葉・広葉樹の間に、粗らに淡青み、日々濃くなっていく。やがて、樹々は、広々とした深い青の海原になる。さざ波も立つ。ときに、人はこの海にわけ入る。溺れる。ここの暮らしは、樹は人とその暮らしのゆえに伸び、稼ぎ。人はまた樹木に尽くし、働く。樹々は人、人は森、樹から生れ。」(世耕政隆・詩集「樹影」より)
11月10日	文芸学部創設10周年記念特別文芸講演会開催。 講師:塚本邦雄教授、演題:「超ジャンルの文学—聖書見ザル歌詠ハ遺恨ノ事ナリ」
1999年	平11 8月2日 理事・文芸学部長後藤明生教授逝去。 ◇「葬儀・告別式は8月6日、後藤家と近畿大学、文芸学部の合同葬として大阪市中央区の仏教文化会館で行われた。文芸評論家で東大総長の蓮見重彦氏は「私たちは頻繁に連絡を取っていたわけではなかったが、互いに敬意と信頼の間柄であった。あえて、悲しみの言葉を述べない私を心の広いあなたはきっと許してくれるでしょう」と、教授の人柄に触れた弔辞を述べた」。 (「近畿大学新聞」第408号より)
9月1日	野本寛一教授が文芸学部長代行に就任。 村瀬憲夫教授が大学院文芸学研究科長代行に就任。
2000年	平12 10月1日 村瀬憲夫教授が学部長に就任。
2001年	平13 4月1日 教養部改組に伴い、12名の教員が文化学科に移籍。
2002年	平14 4月1日 国際人文科学研究所開設。日本文学専攻を中心に、文芸学部との交流が盛んに行われる。

2003年	平15	
4月1日		文学部「英米文学専攻」が専攻名を「英語英米文学専攻」に改称。 旧E館が解体され、跡地が駐輪場となる。それに伴い旧職業訓練所塗装工場が演劇実習教室・「アート館」に改修される。
2004年	平16	
4月1日		芸術学科「造形美術専攻」が専攻名を「造形芸術専攻」に改称。
10月1日		荒巻裕教授が学部長に就任。「文芸学部創設20周年刷新プロジェクト」が始動する。 ◇「文芸学部創設20周年刷新プロジェクト」の内容は以下の3点であった。 1. 「心理学系学科」の新設 2. 「コミュニケーション系学科」の新設 3. 「芸術棟」の新設構想 日本文化研究所開設。綱澤満昭教授が所長に就任。
2006年	平18	
4月1日		1月、荒巻裕学部長が副学長に就任。 「演劇・芸能専攻」が「舞台芸術専攻」に改称し、コース制を廃して三つの系カリキュラム（「演技創作系」、「ドラマコミュニケーション系」、「TOP系」）構成となる。
10月		「英語村E ³ [e-cube]」が開設され、北爪佐知子教授(現・理事)が村長に就任。建物の基本設計は岡本清文教授が担当。
2007年	平19	4月、奈良国立博物館・京都国立博物館の「キャンパス・メンバーズ」に加入する。
2008年	平20	
4月1日		新学科「英語多文化コミュニケーション学科」が開設される。 「英語英米文学専攻」が専攻名を「外国語外国文学専攻」に改称し、中国語、韓国語が加わる。 文芸学部20周年記念事業として「高校生のための近畿大学文芸大賞」を開設。2012年まで計5回実施される。
10月1日		井面信行教授が学部長に就任。
11月		文芸学部20周年記念事業としてホーム・カミング・デイが実施される。
2009年	平21	
		4月、「文芸フェスタ」が文芸学部の正式行事となる。第一回総合テーマ:「夢学へ！」 村瀬憲夫教授が中央図書館長に就任
2010年	平22	
4月1日		語学教育部改組に伴い、語学担当教員8名が文芸学部に移籍する。 「総合社会学部」設置に伴い、文化学科の「心理・社会コース」が新学部に移る。 EキャンパスにBLOSSAM CAFÉがオープンする。
2012年	平24	
4月1日		「文化学科」が学科名を「文化・歴史学科」に改称。 「英語多文化コミュニケーション学科」が学科名を「英語コミュニケーション学科」に改称。 「総合社会学部」が開設され、「英語コミュニケーション学科」の国際協力、ジャーナリズム等の分野が新学部に移管される。
10月1日		佐藤秀明教授が学部長に就任。

年月日		事 項
2013年	平25	
4月1日		北爪佐知子教授が中央図書館長に就任。
8月		文芸学部創立25周年記念展「近大芸術」が、あべのハルカス近鉄本店タワー館 美術画廊にて開催される。
2014年	平26	
8月		北爪佐知子教授が学校法人近畿大学理事に就任。 芸術学科新芸術棟・D館が竣工。
2015年	平27	
3月		国際人文科学研究所閉鎖。
4月1日		八角聡仁教授が中央図書館長に就任。
2016年	平28	
4月1日		新学科「文化デザイン学科」が開設される。 「外国語外国文学専攻」が専攻名を「英語英米文学専攻」に改称する。 「英語コミュニケーション学科」が新学部「国際学部」に移管される。
10月1日		高宮いづみ教授が学部長に就任。
2017年	平29	
3月14日		第1回の「文芸学部創設30周年記念事業準備委員会」を開催。
4月1日		入学者定員が455人から515人に増加となる。
11月1日		高宮いづみ教授が副学長に就任。
2018年	平30	
3月31日		日本橋の「近畿大学会館」が閉鎖される。
4月		「文芸学部創設30周年記念事業」の準備が始まる。 8月25日に「オープニング・セレモニー」を開催予定。

|